

会 員 の ひ る ば

過去は過ぎ去らずここにあり、
未来は未だ来ず既にここにある。

金沢区 ^{まつ}松 ^せ瀬 ^{かん}観 ^{おう}翁



時は実在しますが、時間とは人間がつくった概念であり幻想です。今という名の永遠の時があるだけで、時間と言うものは本当は流れている訳ではなく過去も未来も今同時に存在しています。あえて時間の流れと

言うものを想定するならば、時間の流れは多くの人が考えている過去→現在→未来と言う流れではなく、逆の未来→現在→過去と言う流れになります。過去を中心として見るなら、私は結果存在（どうする事もできない受動的な存在）であり、未来を中心として見るなら私は原因存在（これからつくりあげる能動的な存在）となります。今という瞬間は過去と未来が絶対矛盾しながら、ここで自己同一している不思議な場です。過去は絶対的なものではなく常に今の私がつくられるもの、今から過去がつくられる。未来も同じで未来をつくり出しているのは今の私。過去も未来も今つくり出されているのです。今を構成する四つの領域の図を見て下さい。今までにとっては今やこれからはこれから。これからにとっては今や今までは今まで、今にとっては今までは今までで、これからはこれからです。全てのポジションを見わたせるのは今だけです。物質世界（相対世界）は、意識（絶対世界）が自身を体験し味わうための鏡の世界であり映し世です。映す鏡がないと自分の表情や姿形が分からないのと同じように意識も映す鏡がないと想像したイメージを確認する事ができません。意識が想像したイメージが光によって物質化さ

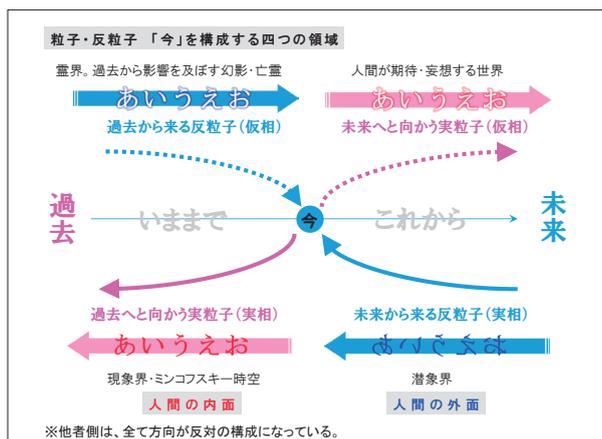
れて物質世界（現象界）が創造されるのです。

仮に私達が土地を所有して1年後に必ずそこに家を建てる事に決めたとします。すると1年後の完成時点から遡って何をいつまでにしなければならないかと言うタイムスケジュールが決まります。基礎工事をいつまでに終わらせ土台をいつまでに仕上げ、外装や内装をいつまでに仕上げ配線を…と言う具合に未来から現在に向ってプロセスがやって来ます。基礎工事をやり土台を作り外装や内装をやり配線等をした結果、たまたま偶然1軒の家が完成した訳ではない筈です。原因があり結果があると言うより、ある結果をもたらす為に原因がつくられたのです。同じ事が私達の人生についても言えます。多くの人は過去から現在に向かって時間が流れていて過去の積み重ねにより現在があると考えていますが、人生は生まれて来る前から決まっています、その決まっている通りに物事が順番に展開しているだけです。過去の積み重ねで現在があるように見えますが、既に決まっている未来のプロセスとして現在がやって来ているのです。白紙の状態生まれ偶然の積み重ねで過去→現在→未来へと人生がつくられていく訳ではなく、生まれて来た時点で人生は決まっています、最終地点の死から流れて来る時の中で必要なプロセスが起こるべくして順番に起きているだけです。過去の全てはただそうになっていたからそうになっているだけ！未来の全てもただそうになっているから、そうになっていくだけ！

【今を構成する四つの領域】

- ①過去の感情的な痛みと亡霊（仮相）
- ②未来に期待妄想する蜃気楼（仮相）

時間は過去から今へとやって来る。今で受け取って未来へと流れる。過去が原因で今が結果。目の前の現実は今から未来に向かって積みあがっていく途上とみる。馬人参をぶら下げられて



今の自分ではない何か別のものになろうと絶えずもがき続け常に不足感を覚える（未来目線の生き方）今の私は結果的存在で受動的，全て外に原因や責任があると感じ（両親のせい，他人のせい，社会のせい，遺伝のせい）身動きがとれなくなり被害者意識が芽生えます。偶然とはその出来事には理由がないと言う事。偶然を認めると全責任が自分にかかってきます（自責の念，罪悪感，後悔）偶然は否定的な見方です。

③未来から今へと向かう潜象界の流れ（実相）
 ④今から過去へと向かう現象界の流れ（実相）

時間は未来から今へとやって来る。確定してる未来のプロセスとして現在が来る。未来が原因で今が結果。今で受け取って過去へと流れる。目の前の現実は全て過去，編み物のように送り出されていく。全てを慈しみ懐かしむ（過去目線の生き方）今の私は原因存在で能動的，外の世界を全てつくり出している。必然とは出来事には十分な理由があると言う事。必然を認めると自由意志はなく，いたずらに自分を責めなくなり楽になります。必然は肯定的な見方です。

人生を振り返った時，もしあの場面でこうしていれば今は違った人生なのにと感じる事があります。しかし自由意志はないので他に選択の余地などなかったのです。未来は変えられると考えるのも錯覚です。努力しても無駄だと言っているではありません。努力すれば未来は変

えられると考えるようになりますが，それは自分の力だけで生きているという思い込みなのです。私は生かされているという言葉は一聞して良い言葉のように思えますが，どこまで行っても善悪観念から逃れられません。二元論から出られないのです。いけてる時といけてない時，ある時とない時。後者なら人は落ち込みます。世間では『こんな事許されるのか』って言いますよね。でもそれって私が許していないだけですよね。それを世間やルールのせいにする訳です。『私は許しません』と言っているんじゃないでそれを全部隠蔽して『こんなの許されるんでしょうか』と言ってカーッとなる。真実は私が許していないだけ。許せと言っているんじゃないですよ。自分が許していないと言う事を認める方が先。みんな見ている（各自のローカル座標の）世界じゃなくて見られている（主体不在の中心ワールド座標の）世界に埋没しています。自分を感じる事に鈍感で，いつも習慣的に反応してしまうのです。努力してるのに進歩していない自分が苦しいです。それでも不屈の起き上がりこぼしのように，立ち上がって生きている自分がある。転んでもただでは起きず，どこからでも拾う心さえあれば，過去がどうであれ今立っている場所から新たな創造をしていけばいいだけ。未来に予期しない出来事が起きたとしても，そこから新たな創造をしていけばいいだけ。人間は自由の刑に処せられています。自由によって不自由になっています。逆説的ですが自分には自由意志はないのだと分かった時に初めて人は自由になれるのかも知れません。自分の役割を楽しみながら思い切り演じ全うしようと言う覚悟が生まれるのです。自分には自分の他人には他人の各自役割があるのです。みんな平等（同じ）という言葉も良い言葉のように聞こえますが，私とあなたは同じと言うのは上下関係をつくります。同じ土俵に立っているので自分本位で相手を見て比較競争し嫉妬や同情を生みます。私とあなたは違うと言うのは対等の

関係でそれぞれが唯一無二の存在です。同じ土俵に立っていないので、比較せずに共感や和合ができます。同じが先行（同質異体）する時に精神は死んで、違うが先行（異質同体）する時に精神は生きると言う事です。まもなく人間の意識は二つの方向へと分かれて行きます。この時空の中に私はいるのだという錯覚から解放されて、閉じ込められた時空から脱出するのが意識進化の方向性です。

参考文献

初級ヌースレクチャーと大阪ヌースロジ教室
(関西ヌースロジ研究会・主宰：川瀬統心)
何故、未来は100パーセント確定しているのか
(星雲社：大和富士 著)